

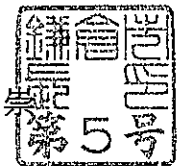
鎌倉総第2037号

令和7年(2025年)10月16日

鎌倉市議会議長

中澤 克之 様

鎌倉市長 松 尾



文書質問への回答について

標記の件につきまして、別紙のとおり回答します。



事務担当

総務課総務担当 (内線2242・2243)

議会受付番号	文書質問第 14 号
質問者	長嶋 竜弘 議員
答弁する者	市 長 (市民防災部観光課)

文書質問に対する答弁書

鎌倉市議会基本条例第 7 条第 3 項の規定に基づく文書質問第 14 号の質問について、次のとおり答弁いたします。

1 質問の内容

インバウンドの問題がメディアで頻繁に取り上げられる事により、鎌倉は外国人観光客でいつも混雑しているとのイメージが広がっており、日本人観光客が「鎌倉に行くのを控える傾向」が増加する事が懸念される。

コロナ禍以前の令和元年と比較すると延入込観光客数は 1902 万人から 1594 万人と 308 万人減少しており、混雑は一部の場所に集中しているだけで、全体としては大幅に減少しているのが実態である。

長谷の高德院の通りや江ノ電乗車の観光客を見ると、圧倒的に外国人の来訪者であり、日本人の観光客が大幅に減少しているように見て取れる。

この状況では今後外国人の観光客が減少した時に、取り返しのつかない事になりかねないので、対応策を考えることが必要であると考えます。

まずはこの現象をきちんとデータとして捉える事が必要であるがどう考えているのか？そのうえで今後の対応策をどうおこなっていくのか？伺います。

2 質問の理由

早急に対応策をとらないと今後大きな影響が出るので。

3 答弁を求めるもの

市長

4 答弁

議員ご指摘のとおり、鎌倉が外国人観光客で混雑している状況が報道されることで、日本人をはじめとした観光客離れにつながる恐れがあることは市としても認識し、危惧しているところです。

実際に、観光案内所窓口の窓口案内件数は、令和元年度総数で 196,862 名のうち外国人が 40,521 名であったのに対して、令和 6 年総数で 122,817 名のうち外国人が 43,061 名と、外国人案内件数はコロナ禍以前の数値まで回復しているのに対して総数は回復しておらず、日本人観光客が減少していることが、観光客数減少の一因であると考えられます。

日本人と外国人の観光客数の推移をデータ化して捉えることについては、データ収集のための多額な予算が必要になることから、鎌倉市単独での実施は予定しておりませんが、神奈川県やかながわ DMO が取得している統計情報等の共有を図るなど、より正確な実態の把握に努めてまいります。

今後も鎌倉が国内外を問わず魅力的な観光地であり続けるためには、市の観光におけるビジョンを明確に示すとともに、市として望ましい観光客を誘致するためにターゲットを定め、戦略的に観光振興を図ることが重要であると考えます。

観光がもたらす経済的・社会的効果を市民の皆様とも共有できるように、受益者・原因者負担の仕組みを導入し、必要な財源の一部を獲得することで、受入環境の充実を図るとともに、レスポンシブルツーリズムを推進し、鎌倉が誇る歴史文化遺産の価値がより深く理解され、楽しんでいただけるような観光振興施策を進めてまいります。